

＜地域公共交通計画の評価等結果の様式＞

西尾市地域公共交通計画の評価等結果（令和4年10月～5年9月）

	目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
	目標指標					
鉄道の維持活性化						
ニーズに対応した公共交通ネットワークの充実	各公共交通機関の年間利用者数 (別紙1)	別紙1	事業者が有する乗降データを用いて計測	別紙1	別紙1	-
次世代に向けた取り組みの推進						
公共交通を使いやすい仕組みの整備	六万石くるりんバス、いっちゃんバスの年間の土休日利用者数及び佐久島渡船の年間の観光利用者数	市内公共交通を網羅したマップの作成及び地図アプリケーションへ反映 バスロケーションシステムの運用	事業者が有する乗降データを用いて計測	令和4年度 六万石くるりんバス:58,317人 いっちゃんバス:926人 佐久島渡船:79,816人 令和3年度 六万石くるりんバス:51,045人 いっちゃんバス:726人 佐久島渡船:81,777人		
観光利用の促進、まちづくりとの連携強化					コロナの影響緩和や以前から運用しているバスロケーションシステムの他、市内公共交通を網羅した西尾市公共交通マップを製作し、バス車内、西尾駅などに設置した。さらにマップをスマホアプリと連動させ、マップ上に現在地情報を表示できるため、初めての利用でもわかりやすい公共交通情報を提供できた。次年度以降は、企画切符の作成など直接的に誘客を推進するような取り組みを進め、公共交通を利用しての外出を促進したい。	
公共交通の魅力発進と情報提供	六万石くるりんバス、いっちゃんバスの収支率及び市の公共交通費用負担額	GoogleMaps及びコンテンツプロバイダへのダイヤ情報掲載 吉良地区において地区公共交通活性化協議会を開催し、目的地の拡大を実施 幡豆地区の一部において選択したエリアを変更可能とする運用を開始	運行委託事業者から提出される委託料請求内容及び市の決算額を用いて算出	令和4年度 収支率 六万石くるりんバス:8.1% (目標値7.0%) いっちゃんバス:1.1% (目標値2.1%) 公共交通費用負担額: 440,667千円 (目標値440,000千円) 令和3年度 六万石くるりんバス:7.5% いっちゃんバス:1.0% 公共交通費用負担額: 445,884千円		目標値は公共交通計画記載。公共交通費用負担額は、名鉄西尾蒲郡線運行維持負担金、幹線系統補助金、コミュニティバス運行委託料、いこまいかー委託料の合計。
地域で支える仕組みの継続				収支率の改善は六万石くるりんバスの運賃収入の増加、公共交通費用負担額の減少は幹線系統への補助金額の減少によるところが大きい。		

(記載に当たっての留意事項)

- ・ 本様式中、表題の「(〇年〇月～〇年〇月)」の部分には、評価等の対象となる期間を記入してください。
- ・ 毎年度の評価になじまないような目標や、数年おきの評価を予定している目標については、「備考」の欄にその旨を明記の上、「目標」及び「備考」の欄以外は「-」と記載して下さい。
- ・ 一つの目標と複数の取組が対応している場合や、複数の目標と一つの取組が対応している場合には、適宜欄を修正の上、記載を行ってください。
- ・ 月ごとの利用者数の推移等の詳細データや、地域公共交通計画の評価等に係る協議会における議論の結果（議事録等）等の関連資料がある場合には、併せて添付して下さい。
- ・ 地方公共団体・協議会等において独自に作成している評価等の様式が既にある場合や、地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価を行った報告様式がある場合には、参考資料として添付して下さい。

交通機関名	目標を達成するための取組	達成状況・分析			評価・次年度に向けた課題や取組
		前年同期値及び計画記載目標値	実績値(対前年同期比)	分析	
名鉄西尾・蒲郡線	利用促進補助(親子利用・団体利用)、貸切列車企画、マルシェ・絵画コンクールの実施、トンボロ駅伝の開催と観光プロモーションの実施、愛知こどもの国において地域共同事業「みかわっ国」を実施	前年:2,787千人 (R3年度) 計画:3,297千人 (R4年度)	2,947千人 (+160千人)	コロナの影響緩和の他、積極的な活性化事業の推進や補助制度の運用改善によるものと思われる。	引き続き、各種活性化事業の推進や補助制度の周知に努めるほか、駅周辺環境の整備などにも取り組み、鉄道を利用しやすい環境を整えることを検討する。
名鉄東部交通バス(幹線)	利用実態に合わせたダイヤ改正の実施。市内学生向け定期券「スクールバス」の発行。	前年:329,381人 (R3.10-R4.9実績) 計画:325,570人 (R4.10-R5.9)	410,689人 (+81,308人)	利用実態に見合った適切な運行計画を実施し、利用者の利便向上に努めた。一色線については、通学や定期外を中心として利用が回復しているものと思われる。	限られた乗務員数の中でお客さまが利用しやすいダイヤの設定を設定することが必要である。藤田医大系統、東岡崎系統の両方について改善余地がないかダイヤ等の検討を継続する。
ふれんどバス(幹線)	碧南高校多客対応のため、一部系統の運行回数を削減し、碧南高校着発の系統を増回した。	前年:255,499人 (R3.10-R4.9) 計画:251,857人 (R4.10-R5.9)	276,002人 (+20,503)	令和元年度水準まで回復するのは厳しいが、コロナの影響緩和により通勤通学利用が増加してきた。	現状のサービスを維持しつつ、利便性向上に努めるとともに、利用者増加のため、新たな利用者発掘を目的とした利用促進策を実施する必要がある。継続してHP等での時刻検索、パスロケーションシステムの提供等を行う。また高齢者用定期券ゴールド・シルバーバスのPRを積極的に実施し、昼間帯の利用促進を図る。
六万石くるりんバス	民生委員や地域包括支援センター等との連携による公共交通利用講座の実施 名鉄東部交通バスのスクールバスによる無料乗車制度の継続	前年:183,366人 (R3年度) 計画:171,531人 (R4年度)	R4年度 212,302人 (+28,936人)	コロナの影響緩和の他、再編から3年経過し新しい路線が地域に根付いてきたことによる増加と思われる。一方で、三和線のみ昨年度実績を下回っており、ダイヤ、路線長などが関係しているのではないかとと思われる。	地道な公共交通利用講座の活動、コロナの影響緩和とあわせて利用者は順調に伸びている。バスの再編から3年経過することから、次年度以降に利用者のバスに対する意見や要望などを一度集約し、利用者目線での改善点を洗い出す必要がある。
いっちゃんバス	沿線地域イベントと合わせた無料乗車日の実施	前年:2,745人 (R3年度) 計画:7,539人 (R4年度)	R4年度 3,474人 (+729人)	利用者数は増加しているが、1便当たり利用者数は1.4人である。また、利用者は一部の住民にほぼ限られている。地域の移動需要と運行形態が合っていないと思われる。	現状では持続性のある公共交通とは言い難い。交通モードの転換も含めた、持続可能な地域の公共交通のあり方について地域住民と検討を進める必要がある。
いこまいかー	吉良地区において地区公共交通活性化協議会を開催し、目的地の拡大を実施 幡豆地区の一部において選択したエリアを変更可能とする運用を開始	前年:5,613人 (R3年度) 計画:3,781人 (R4年度)	6,342人 (+729人)	吉良地区における医療機関の南北区分の撤廃および商業施設の目的地拡大による利便性向上による増加が主な要因と思われる。	順調に登録者数・利用者数は増加している。利用が集中する午前10時ごろは、タクシーの供給が不足することがある。
佐久島渡船(幹線)	御船印の作成・発行を実施	前年:203,886人 (R3年度) 計画:204,981人 (R4年度)	202,614人 (-1,272人)	4月の知床観光船事故の影響による船舶に対する忌避感、全国旅行支援によって遠方の旅行地に誘客されたことなどにより利用者数は若干減少した。	通常の観光動向に戻るにより、観光客利用による利用者数は増加へ転じるものと見込んでいる。また、令和5年3月より集客への一助として一色渡船場で御船印の販売を開始したことによる効果も見込む。